

学校保健

THE SCHOOL HEALTH No.175

(財)日本学校保健会

- 座談会
学校保健の原点を語る… 2
- 叙勲された功労者と
文部大臣表彰の受賞者… 8
- 保健研究大会の特別講演
育ちへのかかわり………10

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。



学校教育と健康教育

財団法人 日本学校保健会 会長 村瀬敏郎

新年を迎え、本年も学校保健に関係する諸賢と共に、心を新たにして活動の推進強化を図りたいと思います。

日本学校保健会は、一般事業と学校保健センター的事業を車の両輪として、日本の将来を担う児童・生徒の健全な成育に努力してまいりましたが、一般会計の規模が必ずしも大きくないため、その活動に弾力の欠けるところがありました。しかし、昨年より都道府県・政令指定都市学校保健会のご協力により、財政基盤安定の方向に曙光をみることができました。誠に感謝にたえないところであります。これをテコとして今年は事業拡大とその普及に全力を傾けていきたいと考えております。

第38回全国学校保健研究大会は、長野県学校保健会のご努力により盛大に行なわれました。本年は茨城県がご担当いただくことになっておりますが、皆様と一堂に会してご研究の成果を語り合える日を楽しみにしております。

皆様のご活躍を期待して年頭のご挨拶といたします。



広い芝生の校庭の周囲には遊具が一杯の千葉県九十九里町立片貝小学校

新春座談会

学 校 保 健 の 原 点 を 語 る



文部省体育局体育官	吉田瑩一郎
千葉県九十九里町立片貝小学校長	秋庭 淑郎
松戸市立松ヶ丘小学校養護教諭	佐久間 幸
大田区立田園調布小学校校医	永野 正敏
〈司会〉 日本学校保健会専務理事	和久井健三

知」としたのは、ささやかながら意図がありました。それは私が6年前に赴任し、今後どんな努力で学校づくりをしていこうか、ということとPTAと話合ったとき、父母は異口同音に当然のことだが「先生、やっぱり体が丈夫で健康でなきゃ駄目だ」という声「いくら利口だって体が良くなけりゃ将来働けやしない、まして、小学校の場合は人間形成にかかわる基礎作りの時期だから、健康な体を作ることこそが第一の眼目でなければならぬ。だからまず体が先だ。」という発言となり、その第一に人間らしい心を培い、さらにその上により多くの知識技能を持つことだ。したがって小学校教育では「良い体づくり」が絶対条件で、「良い心、良い知識づくり」が充分条件という位置づけとなり、以後6年間、これを基本に教育活動を展開しています。すなわち、他に学習指導や特活とかもありますが、わが校の教育活動の基本は保健健康づくりだと考えています。

I 学習指導と学校保健

和久井 編集委員会より「学校保健の原点を語る」という大きなテーマを示されたが、大へんむずかしい問題です。あまり固く考えないで、むしろ原点をふまえて新しい視点で何ができるか、を考えていきたいと思っています。新しい年を迎えて、新しい感覚で、新しい出発をしたいと思えます。

まず、学習指導と学校保健について各職域を代表する立場でお話をお願いします。では秋庭先生から。

秋庭 現場で粗い実践をしており理論的なことになると自信がありませんので実践していることを紹介させていただきます。



秋庭先生

私どもの学校では「体、徳、智」を校訓的モットーとしています。そして児童が登下校のときに否応なく眼につく中央昇降口の脇に碑をたててあります。この

碑は永く学校医をされてきた先生が亡くなられ、その遺志で建てたものです。それに刻んである言葉は「良い体、良い心、良い知識」となっております。普通は「知、徳、体」というところですが、敢て「体、徳、

和久井 人間形成の上で大へん重要なことで良いご意見でした。養護の立場から佐久間先生どうぞ。

佐久間 私たちの方では、集団と個の立場で学習指導を考えています。また、その前に学校保健が機能するように学級経営のシステムができていのか、どうか、私たちの仕事が活かされるかの鍵となります。

作られているシステムが良いと、あとは人間関係を大切にすれば学習指導がうまくいくと思います。養護教諭はそういう関係ができたところで、集団と個を考えながらやっていきます。

集団に対しては、現在、学校環境の整備が良くないと思います。それは、学習指導に追われている傾

向があるからです。私たちの立場からは教科とのかかわりの中で、常に新しい資料を用意し、提供し、質問に答えられるようにしています。最近の例では、エイズやB型肝炎の情報など、時代の必要とするものを、現場で学習しやすいように環境を整えています。また、感染症についての知識など、大事なことの指導をすすめています。

個については、心身に異常のある子どもについて、体育の授業に参加できるかどうか、管理指導案を基本に健康状況を充分観察します。そして、その子どもたちの学習がうまくいくように心身両面の支援をします。保健室への来室者、とくに境界線上の子どもたち、そして、高学年になって勉強についていけず保健室へ逃避してくる子どもたち、についてどういうふうに支援してやれるか、などに配慮する必要があります。

和久井 集団と個に分けて、機能する環境にするにはシステムが必要というお話でした。子どもに接するとき永野先生、校医の立場ではいかがですか。

永野 私たちの場合は学習指導と直接にかかわる話は少ないわけですが、内科校医として感じていることは、親が子どもの病気をかくしていることを、いかに聞きだすか、ということです。例えば「てんかん」などは、なかなか申告してくれません。現実にはプールなどで事故を起しています。



永野先生

それをどうするか考えまして、アンケートを作成するとき、普通は設問を系統だてて作りますが、それを全部ばらばらにしてみました。例えば「ビタミン剤など毎日お薬を飲んでいますか」というQを作ります。それに「飲んでいます」とあれば、それは何という薬ですか、と母親に聞いていくうちに病気が判った、ということがありました。

私の所は東京の縮図ともいえる地域で、大田区の中に工場街の蒲田地区、商工業の多い地区と住宅街を合せもつ大森地区、そして住宅街の田園調布と三つに分れています。そして、それぞれの地域で学校の模様も異なってきます。私は田園調布ですので、

非行問題とか、シンナー中毒のことなど知りませんでした。大田区の学校保健会は一つですので、他地区の話の聞いても実感が湧かないことも多いです。ああいう問題は実際に見てないとむずかしい問題ですね。

私としては小学校六年間見ていますと、子どもと顔見しりになり、できるだけ声をかけるようにしています。コミュニケーションを良くしておくのと、わりと相談にきてくれるようになりますね。

和久井 私は大森地区ですが、子どもとの接し方となると、きょうも予防接種をしてきましたが、子ども達の顔色をよく見てやることにしています。やはり日常の観察が大事ですね。

永野 予防接種には私たちのやり方は、三校の校医が出勤し、その学校の担当校医が問診をして、顔色などチェックし、あとの二人の他校の校医が注射を受持つという形をとっています。

和久井 吉田先生、いまの三人の先生のお話をお聞きになって何か。

吉田 それぞれのお立場からのお話を聞いてとても感銘を深くしました。

学校保健の原点ということですが、何といたっても学校経営機能の一つとして教育目標の達成に生きて働くということでしょう。それは、とりもなおさず心と体の健康な子育てをすることであり、一人ひとりの子供たちがせいっぱい持てる力も発揮しながら、生きる力を身につけていくということに機能するということだと思のです。

その意味では、まず、学校が、学級が、一人ひとりの子供にとって魅力あるものになっていることが基本でしょう。最近では、学校嫌いの子供も多くなっていると聞いておりますが、そのようなシグナルを一番早くキャッチできるのは保健室ともいわれています。そういうシグナルを教室へどうやって返していくか。保健室と学級のコミュニケーション、先程佐久間先生がシステムの話をされましたが、その関係をスムーズにすることが大切なんですね。

そして、学級内の人間関係、先生と子供との人間関係、それに親子関係などの様子、こうした関係をよく知っておいた上で授業を進めていく、学級経営が行われていることが大切だと思うのです。

心豊かで、たくましく生きる人間の育成が、いま、進められている教育課程の基準の改訂の大きなねらいになっておりまして、学校保健の果たす役割は益々大きくなってきていると考えます。

永野 私も4人程、登校拒否の子を経験しましたが、一人は担任の先生が代ったから、あとは家庭の環境問題でした。これは子どもの話ですが、朝、学校へきて先生が頭ボサボサで、ネクタイをしていないときは気をつけろ、といてますね(笑)。子供の一方的な話なので、こんなことってはいけないでしょうが。

吉田 佐久間先生、保健室での「けが」の統計をみると学級の状況がわかるといいますね。

佐久間 そういうこともあります。また、学級担任が変わらない年と、多く変わる年がありますが、担任が多く変わった年は保健室が混みますね。新しい先生に理解されてない、と思いこんで悩むんですね。ですから四月、五月にはそういうケースがふえます。

いまの子どもは、ちょっとしたひと言で、すぐ傷つきやすい面があります。例えば、友人に「あんた少し暗いね」などといわれるともう駄目になってしまうんですね。

私たちの学校は776人中、毎年100人位の転出人があります。外国からの帰国や、地方からの転勤などですが、地方からの転入した子の中には方言で悩まされるケースが多いですね。それが登校拒否の原因となっていることも案外多いですね。若い担任だと授業に熱心になっていて、そういうのを見落していることがあります。そのときはフォローしてあげることです。それにはチャンスをつかんで、担任の立場を尊重した上で、子どもの支援をしていく、というテクニックも必要です。

II 生活指導と学校保健

和久井 登校拒否の問題に入ってしまったので、生活指導の方へ入ります。秋庭先生からどうぞ。

秋庭 私の学校では、地域や、子どもの周辺で起きた事例を、子どもに対して差支えない程度に教えることにしています。そして、その問題から子どもの意欲を喚起させることを考えています。

私どもの地域は漁業が中心で、人心の荒らいとい

うか、粗雑というか、元気があるとか、そういう土地柄です。ですから健康づくりというような「攻めの保健」にはかなり活発ですが、「守りの保健」については比較的関心の薄い地域です。最近の事例ですが41歳の働き盛りの父親が六年生を頭に3人の子どもを残し急死しました。その父親は学校でも地域でも大へん熱心な人でした。当然PTAでも話題となりました。聞いてみると糖尿病を長くわずらい、それから心臓、腎臓へと悪くなり、夕食時に子供たちの前で急死したというのです。

いいお父さんで頑丈だったのに、ということから、PTAの中で子供たちだけでなく、父兄の保健も考えなくては、ということとなり、学校で保健指導をしていることを、家庭へもつなげる指導にして欲しいということになりました。それで急拠始めたのですが、給食後のTV放送時、校長、教頭、養護教諭が交代で出演し、例えば、手洗い、睡眠、清潔、歯みがき、などを指導した後、家へ帰ったら「お父さんやお母さんにも必らず云うんだよ」と話かけています。

子供の反応をみていると、指導と家庭を結びつけると、親とのからみで、以前より関心を持つようになったし、また、親子の楽しい話題にもなっているようです。

和久井 佐久間先生はいかがですか。

佐久間 機会をとらえるということとしては就学時健診のときには親が全部きますから、そのとき、生活習慣の確立をはっきりプリントを作って、見直しのチャンスだからと指導しています。また毎月の保健目標に沿ってアンケート調査をし、それに基づいて親と連絡をとっています。



佐久間先生

児童保健委員会では自作の紙芝居をビデオにとりTV放送を子ども達でしています。また、生活指導部会を毎月開催しています。学校生活の中で家庭へ連絡しなければならないことや自分の生活を自己評価させるために「よい子の一日」という個票を作り、実態の中から項目をきめて実施しています。

それから体力づくりとしては全校で週1回の集り

があります。そのとき見学者を観察することになっています。どうも見ていると夜型人間の子が集まっているようです。朝起きられないために遅刻が多い、自分で病気をこしらえているような子を、その場で見つけるようにしています。ここでする生活指導というのは、その子が一生の流れの中で暮すのに、どういうふうにすればいいのかを教えるようにしています。

例えば遅刻の多い子がいまして、調べると母子家庭でお母さんの仕事の関係で夜遅いため朝一緒に寝て起きて起きられない。そこでお母さんには皆で応援するから頑張るね、といろいろ相談にのりました。お母さんも仕事を変えて、だんだん良くなってきました。このように生活指導は一般的なことと、わけありの事例があり、ケースバイケースでやることですね。

吉田 最近健康の成り立ちの中でライフスタイル



吉田先生

が重要な課題となっています。今度の改訂でも基本的な生活習慣をどうやって育てるか、生活の中の思いやり、ねばり強さ、我慢強さとか世の中のきまりを進んで守る、というような生き方の指導をもっと充実していくべきことが強調されて

おります。そういう意味で学級ごとの計画の中に保健指導、安全指導、食生活指導などが、きちんと組み込まれていることが必要です。また、給食の後の歯ブラシの時間を「さわやかタイム」として設けている学校が大変多くなってきておりますが、このような日常指導の機会を生活時程の中にきちんと位置づけておくことも、習慣形成の上で重要なことだと思います。全体的で良くない、という意見があるかも知れませんが、しかし、学校という集団生活の中での一人ひとりを高めていく役割があるので、もう一度見直していただきたいものです。

もう一つは、やり方ですね、こうしろ、ああせい、という押しつけでなく、ガイダンスの本質は自分に責任をもつ独立心と能力を育てることにあるのですから、自主性を大切にされた方法を工夫していくこと

ですね。

III 健康増進と学校保健

和久井 つづいて健康増進についてお伺いしますが、秋庭先生のところではいかがですか。

秋庭 うちの養護教諭にこれだけは云っててくださいよ、と念をおされてきたのですが…。いま、生涯教育を目指す21世紀の教育が叫ばれていますが、健康保健教育ということは古くて新しい21世紀の教育課題としてもっと深刻に考えていきたい。その中で小学校段階ではそのためのより良い習慣をうえつける、知識ではなく習慣づけですね。そんなわけで私たちは、歯みがきの励行、家へ帰ってもする。父や母もやっているか、と聞かせる。二番目に自分で生活管理をする。これには「すこやかカード」を作り、自分で生活点検をチェックさせる。三番目には、清潔検査、疾病予防を教えるきれいな子にする。四番目は、栄養指導。TVで給食の栄養構成を説明し、合せてきょうの給食は何カロリーであるかも教えて生活化を図っています。

最後に自分達の手で住みよい環境づくりをする。これは校舎の内外の清掃活動で実施しています。最近は大変自覚的で充実した姿が見えてくるようになりました。

佐久間 体力づくりとしては5、6年生の子ども達の大部分は部活に入っていますが、この他に体力向上の日を作って1年から6年生まで全員が実施しています。9月からはボール体操、これは各自がボールを持っています。そして各学年によって違います。11月になると縄飛び、これには短縄と長縄があります。12月にはマラソン大会、1月に入ると菜の花体操、4月からはジャニー体操というふうに行っています。校庭が狭いので朝の始業前、そして終業後と行っていましたが、つい先程、学校の周辺に痴漢がでた、というので一時中止してみましたが、子ども達はやはり朝早くから校庭で運動しています。やはり、子ども達にとって体を動かす場を与えないと可哀そうだ、ということになり再開しています。

永野 大田区では肥満児を館山の保健学級に3日間の体験入学をさせています。それには保護者も一日参加させています。ちょっと気になるのは、体育の

時間に見学している子を見ますが、大てい校庭の隅みの吹きざらしで立っています。体の悪い子なんか、かえって悪くなってしまうのではと思います。教室に入れておくと目のとどかない、ということもあるのでしょうか。

佐久間 私の学校では朝礼台の後に理科教室があり、見学者は全員そこへ集めています。私はその機会をとらえて、何の具合が悪いのかを調べ、一人ひとりをチェックしています。また、教頭先生がきて、見学というのは見て学ぶのだから、といつてとても厳しくしています。

永野 私は親には少しぐらいのことでは休ませないように言って、体育に参加させるようにすすめています。体育の授業時間よりも遊びの時間の方が暴れているくらいですから。

秋庭 私の地域は田舎でも、子どもが自由に安心して遊ぶ場がありません。田んぼがあっても入ってはいけません。空地は危険、広い海があっても波が人をさらう、一人でいってはいけないというように、子供たちに自由な遊び場が案外ありません。そこでPTAと話合っって高さ10米程の、いろいろな遊びのできるアスレチックを2年がかりで作りました。そして、子ども達に自由な時間に遊ばせています。教師のいらぬ巧まざる安全体力づくりを始めたというわけです。

当初は怪我をするのではないかと恐れていた父兄もいましたが、もう4年たちますが怪我人はほとんどでません。かえって普通の所で走っていて転んで負傷するというのが多いくらいです。

教師がついていなくても、子どもがひとりでにしかも喜んで安全性、敏捷性、柔軟性などが育てられる遊具というものは価値がありますね。

もう一つは広大な芝生の校庭があります。見学にこられる方たちは「自然に恵まれていますね」といわれますが、あれは自然ではなく私たちの手で作ったものなのです。本当は大変な苦勞なのです。また一輪車も5,60台用意してあり、休み時間になると、子ども達がわれ先にと校庭へとびだしていきます。

私の着任当時はこれらの施設もほとんど無い状態で、子ども達は廊下や教室で遊んでいました。これらの施設を作ってから、雨の日でもないかぎり休

み時間に校舎内にいる子どもがいなくなりました。

体力づくりというと、教師や指導者が入ってやるという方法もありますが、それよりも子どもが喜んでとびついていく、自から体力づくりに励み、なおかつ安全性も身につけていく、といったことの方が意味があると思っています。しかし、こういうことは学校だけではできません。地域や父兄の協力があって始めてできることです。このようなことは合理的に割り切った都会より田舎の方の父兄が喜んで世話をやいてくれますね。温かい心の結びつきがあるからでしょうか。

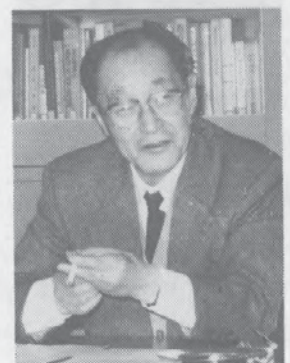
佐久間 私の方は校庭が狭いので学校全体で一斉にやる方法をとっています。

吉田 学校で何ができるか、という側面とともに、もう一つ、学校に入ってくる前に、家庭で地域では何かできるか、という問題もあります。

それには開かれた学校の促進という観点が大事ですね。学校の施設をどのように地域に開放していくかという側面と、家庭や地域をどのように啓発していくかという側面があると思うのですが、学校保健委員会が一つのかけ橋となりますので、この辺の見直しもお願いしたいところです。

IV 健康教育と学校保健

和久井 最後に健康教育ということになりましたが、その前に吉田先生に質問したいのです。従来は保健教育といっていました。今度、健康教育というふうになりました。保健と健康とどういうふうが違うのか、ということをお尋ねする講習会で質問がありましたので…。



和久井専務理事

吉田 保健教育は保健学習と保健指導を包括した概念としてとらえられています。今度、文部省がいつている健康教育は、文部省の機構改革で、学校保健課と学校給食課を統合して学校健康教育課が新設されたことにかかわっているのです。したがって、ここでいう健康教育は保健教育、安全教育、給食指導を包括する範囲のものによるわけですので、保健教

育は健康教育の一環ということになります。

和久井 ということでは健康教育と学校保健の問題についてお話を…。

秋庭 私どもの学校が今度朝日新聞社主催の健康優良校全国優秀校に選ばれましたが、この3年間は保健教育、安全教育を中心にし心の健康も含めた全校的挑戦の成果でした。以前と比較してみても、職員も子供も何となく明るくなりました。そして、毎日の生きざまが確かになった、という感じを全体として受けています。

しかしまたこの3年間のとり組みをふり返ってみますと、冒険的ないい方をお許しいただくならば、小学校教育の教科編を除いた人間形成の基礎編を総ぐるみで実践してきたように思います。そして「健全なる肉体にこそ健全なる精神が宿る」といった言葉をしみじみと実感します。

そしてもう一つ、健康保健の教育は地域と一体となった“ぐるみ”教育といえますか、学校保健委員会、地域の保健センター等と一体となって実践していくことは大切だと思いました。先程申し上げたように、父母の急死のことがきっかけとなって健康教育のあり方が現在は地域として一つの関心事となって、いい方向にいらっていると思っています。

佐久間 今度はじめて大規模校で応募してみました。うちの学校では算数の研究を十年やっています。その他に体力づくりと給食指導の研究をやっています。保健はそれ等全体の合間を埋め合わせるようにして仕事をしています。ですから先生方は実によく体をマメに動かしています。そうしないと共同研究が多いので追いつかないのです。給食の方では県の指導を受け先ごろ文部大臣賞をいただきました。

また、学校保健委員会の中では、地域との関係、学校経営、学級経営に関して、いろいろと校医の先生方から助言をいただいて参考にしております。

それと、私の学校では外国からの帰国子女が多く、その子たちへの配慮といえますか、とくに予防接種の洩れなどに気をつけています。

健康教育では校内放送にビデオを利用したいと考えていますが、自分たちの手で作るのにはずい分と時間がかかるので、NHKの今日の健康とか、ウルトラ・アイなどをうまく編集してくれないものか、

と考えています。そうすると教科の中に生かせるのではないかと思っております。

永野 最近、親が子どもに、学校ではあまり暴れるような遊びはするな、ということをお聞きしました。なぜだ、というと、塾へいつてから疲れて眠くなってしまふからだ、といわれました。そんな声を聞くと、親の教育をしなくてはと考えますね。

また、親の生活が影響するのでしょうか、朝食を食べてこない子が多いと聞きます。食べてくる子でも母親が夜のうちに作っておいたものを、自分で電子レンジで温めて食べてくるという話も聞きました。

私は小学校一年生のツ反のときは、医院の診療時間の前に、午前11時20分ごろからしています。それは一年生はまだ入学早々で給食もなく、午後だと帰校後もう一度登校させなくてはならず、可哀想ですので、私の方が早くいくことにしています。そうしたら朝、保健室でパンを食べている子がいます。聞くと、腹が減って気持ちが悪くなった、というので養護の先生に貰って食べている、とのことでした。

そんなことで母親の教育を痛感しています。

和久井 最後に吉田先生からいまままでお話しいただいたことも含めて全般的コメントをお願いします。

吉田 先程、秋庭先生からお話があったごとく、いわゆる健康優良学校の健康教育は学校教育の全部が健康教育なのですね。体の健康、心（知・情・意）の健康、みんな健康教育なんですね。このような健康のためにする教育は全部健康教育だととらえられているわけです。それを誰がやるのかというと、保健主事や養護教諭、学校医、学校歯科医、学校薬剤師はもちろんです。主役は保護者であり、また、学級担任一人ひとりなんです。

そのことで子供達の学校生活が変わってきて、保健室でパンを噛むような子どももいなくなり、校庭で生き生きと遊んでくれるようになるのですね。

その意味で、私はこだわるようですが、学校保健委員会の活性化、地域と一体となった活動が欲しいと思っています。そして地域の学校保健会が、これをバックアップしていただきたいと願っています。

和久井 大へん有難うございました。21世紀へ向けての豊かな社会を目指して、子供たちの保健の問題について一層のご指導ご協力をお願いします。

昭和63年度 叙勲された学校保健の功労者 《春》 《秋》

◎学校医

<旭五>

福田 恒一(神奈川県) 大坪 藏六(鳥取県)
内藤 啓一(徳島県) 黒田 健雄(和歌山県)

<瑞五>

島倉 喜作(富山県) 塩入 洋(長野県)
平林 吉雄(長野県) 吉岡 英男(埼玉県)
珠玖 捨男(北海道)

◎学校歯科医

<旭五>

中田 収介(島根県) 鈴木 一男(福島県)
大澤 一康(静岡県) 小濱 重利(鹿児島県)

<瑞五>

千川 茂雄(群馬県) 丹羽 又平(石川県)
田原 長衛(愛知県) 佐々木政男(埼玉県)
榎本 赳(千葉県) 遠芴 市郎(岩手県)
佐藤 健司(滋賀県) 中村 篤夫(大阪府)
西澤 正(福岡県)

<旭六>

高野 文夫(茨城県)

◎その他

<瑞五>(教育功労)

沖藤 幸(広島県)

◎学校歯科医

<藍 綬>

長内 秀夫(青森県)

◎学校医

<旭五>

佐藤 弘之(茨城県) 大野 明德(埼玉県)
藤代善次郎(千葉県) 川崎 朝生(福岡県)
大谷 正次(三重県)

<瑞五>

佐野 廉(愛知県) 織田 善七(群馬県)
折口 功(長野県) 松山美香樹(宮崎県)
古江不二海(鹿児島県) 小野志づゑ(長野県)
北川 不二(石川県)

<旭六>

藤井徹右衛門(島根県)

◎学校歯科医

<旭五>

大竹 節二(静岡県) 香田 正男(長崎県)

<瑞五>

早川 武則(山梨県) 勝沼 金彦(埼玉県)
川村 輝雄(滋賀県) 吉岡 尊治(広島県)
木口 千秋(岡山県) 佐渡 永貞(富山県)
柳川 ハル(神奈川県)

◎学校薬剤師

<瑞五>

藤井 正雄(京都府)

◎その他

<瑞五>(教育功労)

堀内 フミ(東京都)

第37回 全国学校保健研究大会

文部大臣表彰の個人・学校・団体

◎学校保健関係

◎学校医(49名)

安倍 保正(北海道)	金子 養悦(北海道)	北山 守一(青森県)	成田みつ子(青森県)
荒木田定世(岩手県)	山本 清一(宮城県)	能登 彰夫(秋田県)	細谷 憲一(山形県)
添田 誠(山形県)	渡部 次郎(福島県)	鈴木 秀光(茨城県)	城 巍(茨城県)
村田 欣哉(群馬県)	仲田 寛(埼玉県)	坂本多喜夫(埼玉県)	筑紫 榮一(千葉県)
堀口 満(東京都)	和久井健三(東京都)	岡田 榮(神奈川県)	秋丸 猛虎(神奈川県)
岡田眞一郎(神奈川県)	多田 秀一(富山県)	土原 一二(石川県)	高尾 利夫(山梨県)
田中 秀朋(山梨県)	神林 義教(長野県)	五味 一(長野県)	勝間田耕秋(静岡県)
山本 有尚(愛知県)	佐々木龍夫(愛知県)	菊本 一正(滋賀県)	大西 照市(大阪府)

野々上泰信(大阪府)	長谷川 茂(兵庫県)	竹田 斌郎(奈良県)	前田 貞雄(和歌山県)
塩路 信廣(和歌山県)	庄司 恭子(鳥取県)	能美 雅(島根県)	大栗 修(岡山県)
八田 博英(広島県)	多田羅徳夫(香川県)	柴田 富美(福岡県)	小林 敏雄(佐賀県)
牧田 智(熊本県)	豊島 正明(大分県)	日高 保二(宮崎県)	西浦 勇平(宮崎県)
海江田綱重(鹿児島県)			

◎学校歯科医 (34名)

澤田 清孚(北海道)	木村 節子(北海道)	熊谷 淳(青森県)	堀米 榮一(岩手県)
杉山 賀美(宮城県)	堀部 清元(秋田県)	佐藤 武夫(福島県)	今井 邦(栃木県)
小林 治喜(埼玉県)	古川 満(千葉県)	梅田 昭夫(東京都)	朝比奈敏行(東京都)
井上 正治(神奈川県)	北村 梧朗(新潟県)	熊木 甚朔(富山県)	野口 慧(長野県)
田口 要(長野県)	西山 孝雄(岐阜県)	平川 幸矢(滋賀県)	有本 武二(京都府)
竜門 敦子(大阪府)	光川 正雄(大阪府)	湊 信一(兵庫県)	福辻 靖典(和歌山県)
沖本 秀夫(広島県)	山根 稔夫(山口県)	村上太一郎(高知県)	小林 實(福岡県)
尼子 豊州(長崎県)	内川 進(長崎県)	鬼塚 義行(熊本県)	工藤 芳之(大分県)
近藤 親儀(宮崎県)	神元 繁弘(沖縄県)		

◎学校薬剤師 (16名)

榎本 一郎(茨城県)	佐藤 忠(群馬県)	井出 榮(東京都)	西村 謙二(東京都)
河村 健(石川県)	松山 久(長野県)	鈴木 宏治(愛知県)	藪田 秋夫(三重県)
白滝 忠光(京都府)	岡崎富美枝(大阪府)	岩本 晴光(鳥取県)	布野利太郎(島根県)
松浦 隆人(広島県)	武田 徹郎(香川県)	大野 義昭(福岡県)	杉原 剛(大分県)

◎校 長 (6名)

山田 央(神奈川県)	伊藤 昭三(滋賀県)	江見 潔(兵庫県)	藤井 治(奈良県)
須見 敬二(徳島県)	宮里 朝景(沖縄県)		

◎養 護 教 諭 (6名)

三枝 時子(栃木県)	福地 絢子(群馬県)	志村 允子(大阪府)	神崎智枝子(岡山県)
望月ミヨコ(広島県)	石田浄海子(山口県)		

◎学 校 (11校)

青森県八戸市立長者小学校	福島県いわき市立好間第四小学校	福井県勝山市立平泉寺小学校
福井県福井市川西中学校	長野県長野市立通明小学校	静岡県焼津市立黒石小学校
三重県朝日町立朝日小学校	京都府京都市立旭丘中学校	愛媛県保内町立保内中学校
愛媛県今治市立鳥生小学校	佐賀県富士町立北山小学校	

◎団 体 (4団体)

東京都大田区学校医会	東京都練馬区医師会学校保健部	東京都立川市学校保健会
鹿児島県加世田市学校保健会		

◎そ の 他 (5名)

關 秀夫(東京都)	村田喜代子(京都府)	宇野 又二(京都府)	松浦 道雄(徳島県)
加來 昭(福岡県)			

⊕ 学校安全関係

◎個 人 (1名)

西塔 克美(埼玉県)

◎学 校 (23校)

山形県南陽市立中川小学校	福島県福島市立蓬萊幼稚園	栃木県立栃木商業高等学校
群馬県大間々町立大間々南小学校	千葉県野田市立山崎小学校	新潟県糸魚川市立糸魚川東小学校
富山県下村立下村小学校	石川県立羽咋工業高等学校	福井県敦賀市立敦賀北小学校
長野県原村立原小学校	長野県飯田市立伊賀良小学校	静岡県修善寺町立修善寺中学校
愛知県蒲郡市立大塚小学校	奈良県榛原町立榛原幼稚園	島根県出雲市立古志幼稚園
広島県戸河内町立戸河内小学校	山口県立佐波高等学校	香川県高松市立檀紙小学校
愛媛県大洲市立大洲小学校	福岡県苅田町立片島小学校	佐賀県鹿島市立東部中学校
熊本県人吉市立大畑小学校	鹿児島県指宿市立今和泉小学校	

第38回 学校保健研究大会

特別講演 育ちへのかかわり

お茶の水大学長 河野重男

1. 臨時教育審議会における教育への提言

すでに臨時教育審議会において、これからの教育についての提言がありました。

わが国の教育の方向として教育課程の改善の基本要項をみていますが、学校保健としてとらえてきた分野をもっと充実させ、学校保健を学校教育の全体にわたり学校教育の基幹として打ち出しています。

1つは、登校拒否・いじめ・偏差値中心の教育など現在当面している問題点をどう解決し克服していくか、また、現在学校で教育をうけている児童生徒達が21世紀にたくましく生きていけるような教育をするには、どうすればよいか、この2つの視点で現状をどう克服するかが課題でもあります。

今までは、どちらかと言えば病気等をどう診断し、治療していくかに力を傾注していましたが、21世紀の社会を見通し、守りの学校保健ではなく攻めの健康教育への方向づけがいきます。文部省におきましても、体育局学校保健課を健康教育課に統合しましたのも、このような考えが裏づけとなっています。

臨教審の方針、新指導要領作成の方向づけとしまして2つの項目があげられます。

1つは「学校教育のあり方と生涯学習にむけての基礎づくり」。つまり、これからの教育を生涯学習体系に移行するということです。

2つめとして、生涯学習社会を次のようにとらえているということです。つまり、幼児から老人まで80年にわたる生涯に対応し、一人ひとりが生き甲斐のある、そして充実した生活をするために学習し、援助し、助長していく。

また、このことが生涯学習の目的でもあります。

生涯学習の基礎づくりとしての学校教育の原則は1として「一人ひとりの子ども達にとって生き甲斐のある充実した学校にしていく」2として「自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に対応できる能力を持った子どもに育てる」にあります。

これからは国内外ともに予測できない厳しい情勢がありますが、子ども達個々の資質を見出し伸ばしていく方向づけがいきますし、責任もあります。厳しくなる社会の中で、生きがいのある充実した生活ができるような、基礎になる学習を子ども達にさせ

ねばならないし、また、それらが心と体の健康基盤となることの確認もいります。

○現代に生きる倉橋理論(大正12年)

倉橋理論の書き出しに「現代社会は如何なる人間を必要とするか」という問いかけでありました。そしてその答は、

(1) 神経が健全で強健なる子ども

生物学的な健康な体と思いやりなどの心をさしている。

(2) 困難に打ちかって疲れぬ子ども

大きな変化に直面しても解決するまで疲れず生きていく。

(3) (1)と(2)の基本にたつて自分の仕事を実行できる人間づくり。

2. 教育課程改善と健康教育

今回の教育課程改善は「自ら学ぶ意欲をもち困難にうちかつ子どもづくりをする」ということでありまして、これからの健康教育を考えますとき、前述の倉橋さんの三つの答は現代に生きており、そのような結びつきで考えていきたいと思えます。

具体的には

(1) 旺盛な学習意欲と最後まで取り組んでやるぞという意志力の育成。(倉橋理論(1)と(2))

健康教育、学校教育という視点で自然体験学習を。(自然の環境の中でたくましい原体験をさせること。フロンティア・アドベンチャー。冒険心、探検心を育てる)

(2) 自分の体についての正しい理解とほこりを持つ。

自分の体の特徴をいかして、自分なりのよさを理解し自分なりのもっている個性的なものをいかす。つまり劣等感の転嫁をはかり、ほこりを持つ。意欲と意志の決定でこのような視点でとらえる。そして自分のよさを認めてもらい自信をもつ。これが意欲と意志の力となる。

以上のような視点で子ども達をみることが個性をいかす教育のもととなります。そして心と体を育成する必要があります。

評価サイドからみた場合、基本的視点として美点凝視方法が必要です。今までは欠点凝視方法でした。↗

そしてこれからは加点主義で子ども達をとらえたい。昨日よりは今日、今日よりは明日にと考えていく加点主義の評価がいきます。

いずれにしても、自分なりの個性をいかし自分なりに打ちこんでいくという旺盛な意欲と強い意志力を育てることが必要です。

そして、どんな変化にも対応していくためには、旺盛な学習意欲と基本的な生活習慣の形成がいますが、基本的な生活習慣をひろくとらえて基本的な生活能力ととらえるべきでありましょう。これらにつきまちは家庭と学校で洗い直し、とりこんでいくということで問い直しがされています。

また個性をいかし充実するというので、きく力の問い直しがされています。(幼児期から落ちついて話しをきく、また子どもの話しをじっくりと耳を傾けて聞いてあげる。語りべになっておとぎ話しをきかせてあげるなどを生活の中ですること)

そして、体の部分を強くする教育、つまり小筋力を発達させ、大筋力を発達させる教育をということで、あそびの見直しが問われています。

3. 知能の教育から知性の教育への転換を

最近の教育の流れとして、我が国では見落されがちだった知能の教育から知性への教育の転換があります。

健康についての知性の基盤となるのは、どんな変化に直面しても対応できるように正しい知識、技能がなくてはなりません。

そしてどのような変化に当面しても、視点として美しさがわかる子にしたい。自然の美しさ、人の心の美しさ、地域文化の美しさがわかる子にしたいと思います。

21世紀にむけて、どんな変化にも敢然として立ちむかっていくことができるように生涯教育の基礎づくりをしてほしいと思います。

健康は社会づくりの一環としての健康づくりにむけて、守りの学校保健ではなく攻めの健康教育へと飛躍的に充実発展させ、21世紀に生きる子ども達の教育の充実を期待したいと思います。

(文責 福原保子)

学校保健会だより

昭和63年度 全国学校保健協議大会

昭和63年度の全国学校保健協議大会は、去る昭和63年11月11日(金)の午後4時30分から、長野市で開催された第38回全国学校保健研究大会に引き続いて、同市内のホテル信濃路において開催された。

2日間の研究大会終了後にもかかわらず、昨年同様150名近い出席者があったことは、この協議会に対する関心の深さを示しているものと考えられる。

協議大会は、村瀬本会会長、石川文部省体育局学校健康教育課長のあいさつに始まり、議長団に選出された、榊田本会常務理事、陶山大阪府学校保健会会長代行、伊藤長野県学校保健会長、小川茨城県学校保健会長の4氏によって運営された。

まず、昭和62年度の協議事項の処理に関して、昨年度開催地の代表である陶山大阪府学校保健会会長代行から報告があり、次いで本年度の協議に入ります。

本年度の協議題の決定にあたっては、各加盟団体から提出された39議題を、本協議会の充実をはかるねらいで、学校保健の今日的課題を中心に集約し、参加者全員で集中的に協議した。

○昭和63年度協議題

1. 登校拒否、校内暴力等心の健康問題の対応に

ついて。

- すこやかな子供の育成について。
 - 「心の健康問題」の把握と対応の指針作成について。
 - 児童・生徒の心の健康に関する対応の充実について。
2. 学校における健康教育の充実、強化について。
- 教科(保健)と道徳及び特別活動における健康に関する内容の関連と充実強化について。
 - 小学校における保健教科書の作成について。
 - 性教育及びエイズ等の予防に関する指導の充実並びに感染症対策について。
 - 学校健康教育推進のために必要な教職員の研修の充実について。
3. 各加盟団体提出の協議事項について。

まず、この問題を提案したブロックそれぞれの代表から、提案理由の説明があり、さらに、一般参加者からの意見発表も行なわれ、内容を深めることができた。(提案ブロック名省略)

この問題の処理とあわせて、各ブロックから提出された協議事項をふまえた、要望事項、研究課題の作成等については、議長団に一任された。

なお、来年度は11月17日(金)、茨城県で開催される。

発行 財日本学校保健会 村瀬 敏郎 〒105 東京都港区虎ノ門2-3-13 第18森ビル 電話(501)3785・0968 振替口座 東京4-98761 頒価1部100円(送料共)

育ちざかりのひと粒!

体力をつけ健康を保つ

カワイ肝油ドロップ



製造発売元 **河合製薬株式会社** 東京都中野区新井2-51-8



学童の集団検診にお選びください。



尿中白血球反応をプラスしたエームスの尿検査試験紙

エームス尿検査試験紙 尿中pH・ブドウ糖・蛋白質・潜血検査用
ヘマコンビスティックス®
尿中赤血球検査薬
 エームス尿検査試験紙 尿中pH・ブドウ糖・比重量・pH・潜血・蛋白質・亜硝酸塩・白血球検査用
ネフロスティックス-L
尿中赤血球検査薬

マイルス・三共株式会社
 東京都中央区銀座1丁目9番7号 〒104 ☎(03)567-5511
 販売元：
三共株式会社
 東京都中央区銀座2丁目7番12号 〒104 ☎(03)562-0411
 JU14885

生き生きとした 学校環境づくり

—学校環境衛生活動事例集—

(財)日本学校保健会 編
 ★A5・128頁・定価1,050円<〒200円>
 学校現場における各種環境衛生活動の意義・要点をふまえ、
 図・イラスト・資料を豊富に用いて実践事例を紹介、学校現場の環境改善を推進するための方途をわかりやすく解説した。掲載した豊富な事例を活用して、実践にすぐ役立つことができる手引書となっている。



第一法規 〒107 東京都港区南青山2-11-17
 ☎(03)404-2251/FAX(03)479-1747

●学校保健の総合月刊誌

健康教室

いつもフレッシュな現場のための専門誌
 例月号定価 600円
 特集増刊号(年3回) 各650円
 臨時増刊号(年1回) 800円

●一般向け資料集・指導書(日本学校保健会編)

63年度版学校保健の動向 B5判 330頁 2,400円
 保健指導に必要な知識100題
 A5判 210頁 1,100円
 (小学校)学級担任のための歯の保健指導
 B5判 174頁 1,580円
 高等学校保健指導の手引 A5版 280頁 1,800円

学校保健専門出版 **東山書房** 京都(075)841-9278 東京(03)553-8358

“ふだんの予防で、元気な毎日”まず手洗い!!

殺菌 消毒用 シャボネット石鹼液2.0L

日本学校保健会推せん No.632

精製ヤシ油を原料にした殺菌、消毒用石鹼液で、手洗いのあといや～な臭い
 が残りませんので喜んでお使いいただけます。シャボネット容器に入れ、水で
 7～10倍にうすめてお使いください。

サラヤ株式会社 TEL (06)797-2525 東京サラヤ株式会社 TEL (03)769-3131

〈本会報は、拠出金と、本会への船舶振興会助成金により作成しました〉